教　科 科　目	国語 現代文Ｂ	学 年	５年	単 位	３単位	担 当	西嶋　弥栄子

【科目の概要】

国語総合で身につけた学力を基に、文章や資料を読解する力を身に付け、考え方を深く養っていくことを目的とします。国語としての日本語を大切にし、洞察力を高めるとともに、自然や人間、現代社会が抱える様々な問題と自分自身との関わり方について考えます。

【育成をめざす学力】

①　自分で学習できる力

②　多様なテキスト（文章・図・グラフなど）を読解する力

③　テキストに書かれていることを理解する力

④　自分の意見をプレゼンテーションできる力

⑤　出題形式に応じて解答できる力

【評価基準・評価項目】

・文章構成を理解し、要約することができる。

・筆者の主張を捉え、その主張に対する自分自身の考えを持つことができる。

・登場人物の心情や、その心情の背景にあるものを読み取ることができる。

・設問に応じた解答ができる。

・自分の考えを的確に伝えることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	小説「山月記」 評論「脳のなかの古い水路」／文学史復習：上代～中古
６月	評論「小さな建築」／文学史復習：中世～近世
７月	評論「意味論的旅と越境」／詩「永訣の朝」
８月	小説「夏の葬列」／　評論「近代都市のレトリック」／文学史：近現代の詩歌
９月	小説「夢の兵士」／文学史：明治
10 月	評論「モードの視線」
11 月	小説「こころ」／文学史：大正～昭和
12 月	模試対策
１月	評論「であることとすること」
２月	評論「科学と世界観」／文学史復習：明治～昭和
３月	模試対策

教　科 科　目	国語 古典Ｂ（古文）	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	恒住　典子

【科目の概要】

「古文」は「国語総合」での古文の基礎を発展させる科目です。さまざまな文章を読むことで、人間・社会・自然などについて、古文の世界の知識を深めていきます。また、古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力をつけることで、古文特有の文体や修辞などの表現上の特徴を理解できるようにします。伝統的文化や言葉を大切にしながら、生活様式や、美意識、価値観を学び、その自分の生き方を豊かに広げていく一助としていきます。

【育成をめざす学力】

① 自学（予習・復習など）できる力
② 古語・文法事項・古典常識などに関する基礎知識力
③ 多様なテキスト（韻文・物語文・随筆思想・史伝など）を読解する力
④ テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力
⑤ 様々な出題形式に応じて解答できる力

【評価基準・評価項目】

・古文の音読ができる。　・古文の正確な現代語訳ができる。　・古文の詩歌の解釈ができる。
・作者の執筆意図を理解できる。　・作品に描かれた思想や感情、文化を理解できる。
・古典世界と現代との関連性を見出すことができる。　・文学史を理解できる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	説話　十訓抄「大江山」 随筆　徒然草「世に語り伝ふること」
６月	随筆　方丈記「ゆく川の流れ」
７月	歌物語　伊勢物語「初冠」「狩りの使ひ」　大和物語「姨捨山の月」
８月	物語　和歌・歌論　「古今和歌集　仮名序」　物語　源氏物語「光源氏の誕生」
９月	物語　源氏物語「小柴垣のもと」
10 月	随筆　枕草子「中納言参り給ひて」「雪のいと高う降りたるを」
11 月	軍記物語　平家物語「先帝身投げ」日記　更級日記「門出」
12 月	日記　更級日記「源氏物語を読む」
１月	日記　建礼門院右京大夫集「今や夢昔や夢」
２月	大鏡「雲林院の菩提港」
３月	大鏡「花山天皇の退位」　読み比べ教材「栄花物語」

教　科 科　目	国語 古典Ｂ（漢文）	学 年	５年	単 位	１単位	担 当	恒住　典子

【科目の概要】

語句・句法などを理解したうえで、漢文の訓読のきまりに従って音読し、現代語訳や解釈･鑑賞ができるようにします。また漢文作品をとおして、漢文の文章の特徴を知り、人間の生き方・中国の歴史・思想などについて、自分の考え方を深めていきます。先人たちの価値観や考え方を学び、文化を継承していく姿勢を身に付けていきます。

【育成をめざす学力】

①　自学（予習・復習など）できる力

②　古語・文法事項・古典常識・漢文句法などに関する基礎知識力

③　多様なテキスト（漢詩・物語・随筆・思想・史伝など）を読解する力

④　テキストに書かれていることを自分の知識や考え方、経験と結びつけて表現する力

⑤　出題形式に応じて解答できる力

【評価基準・評価項目】

・漢文の音読ができる。　・漢文の正確な現代語訳ができる。　・漢詩の解釈ができる。

・登場人物の心情説明等、設問形式に応じた解答ができる。

・作品の時代背景や価値観、文学史的な意義などを理解させ、表現できる。

・漢文の世界と現代との関連性を見出すことができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	故事･逸話「漱石枕流」「推敲」
６月	故事･逸話「塞翁馬」「杞憂」
７月	史伝（１）「管鮑之交」「背水之陣」
８月	史伝（１）「赤壁の戦」
９月	詩「望廬山瀑布」　史伝（２）「鴻門之会」
10 月	史伝（２）「四面楚歌」
11 月	史伝（２）「四面楚歌」
12 月	寓話「五十歩百歩」「夢為胡蝶」
１月	寓話「曳尾於塗中」「且買履」
２月	寓話「不死之薬」　文「漁夫辞」
３月	文「春夜宴桃李園序」

教科科目	世界史Ｂ	学年	５年	単位	２単位	担当	宮　直　樹

【科目の概要】国際紛争，環境問題，人口問題，経済格差など，現代社会には世界的な視野で解決が求められる課題が山積している。こうした問題を改善していくには民族・宗教・ことばなど文化の違いを越えた対話が欠かせず，そして対話にはおたがいを理解することが前提となる。文化の違いは人々の歩んできた歴史に影響を受けており，また現在のさまざまな課題は過去の人々の営みの延長線上に発生している。私たちが幸せを求めて未来を志向するほど，過去についての学びは大切となる。５年の世界史では，４年次に学んだヨーロッパ史に続き，19 世紀から第二次大戦にいたる歴史を学び，真の国際人として国際平和に貢献できるような人材となるよう、国際社会を創造するためのあらゆる課題を多角的に捉えていく。

【育成をめざす学力】
・近現代史を理解するために必要な基本用語を習得する力
・学習内容を整理し，「人間理解」「社会認識」に関する近現代世界の地域・時代別の特性や普遍性を理解する力
・学習内容を具体例として，「人間理解」「社会認識」に関する近現代世界の地域・時代別の特性や普遍性を説明する力
・学習内容を自己の関わりからとらえ，近現代世界における「人間理解」「社会認識」のあり方を推断し，評価する力
・自己の価値観から現代を分析し，近現代世界の歴史が与えた影響をふまえて社会課題に対する解決策を提示する力
・学習活動を通じ，世界史学習の意義を理解し，学習への興味・関心を喚起する力
・学習活動を通じ，自己の学習状況や学習姿勢を検証し，改善する力

【評価基準・評価項目】
・学習した基本用語を正確に暗記し，表記できる（**社Ａ①**）
・基本用語同士の関係を図式化し，単元の学習内容について整理できる（**社Ａ②**）
・基本用語を使って，単元の学習内容について説明できる（**社Ａ③**）
・単元の学習内容を通じて，各地域・時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（**社Ｂ①②**）
・各地域・時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（**社Ｂ③**）
・社会問題から解決課題を発見し，学習内容を活用しながら解決策を提示できる（**社Ｃ①～⑤**）
・学習過程において図版，地図，グラフ，文章等の資料を読み取ることができる（**社Ａ④**）
・学習過程において必要な情報を収集し，図版，地図，グラフ，文章等の資料として提示できる（**社Ｂ④，Ｃ①～⑤**）
・学習成果を通じて，学習内容に関する習得，理解，活用状況を検証し，改善できる（**社Ａ⑤，Ｂ⑤，Ｃ⑥**）
・学習過程を通じて，世界史学習の意義を理解し，興味・関心を喚起できる（**社Ｃ⑦**）

【年間指導単元・内容と学習活動】

4 月	郵送課題（4 年次の復習　14～18 世紀のヨーロッパ）
5 月	オンライン授業（単元 24　フランス革命とナポレオン戦争）
6 月	**欧米近代国民国家の発展　～19 世紀の世界** （単元 25）　ウィーン体制と自由主義・国民主義
7 月	（単元 25）　ウィーン体制と自由主義・国民主義 （単元 26）　英米自由主義の進展とロシアの近代化
8 月	（単元 26）　英米自由主義の進展とロシアの近代化 （単元 27）　19 世紀のヨーロッパ文化
9 月	**帝国主義とアジア世界　～19 世紀末から 20 世紀初頭の世界** （単元 28）　近世アジア帝国の動揺
10 月	（単元 29）　帝国主義諸国のアフリカ分割
11 月	（単元 30）　帝国主義諸国のアジア・太平洋分割 （単元 31）　日露戦争後のアジア民族運動
12 月	**二つの世界大戦　～20 世紀前半の世界** （単元 32）　第一次世界大戦とロシア革命
1 月	（単元 33）　第一次世界大戦後の国際体制
2 月	（単元 34）　世界恐慌とファシズム国家の出現 （単元 35）　大戦間のアジア動向
3 月	（単元 36）　第二次世界大戦

教　科 科　目	日本史Ｂ	学 年	５年	単 位	４単位	担 当	室田　悠子 古賀　倫子

【科目の概要】

国際化の進んだ今日では，世界各地で人々と接する機会が増え，自分とは異なる文化を理解する努力が求められています。異文化を理解し，異文化との共生をめざすためには正しい歴史認識をもつことが大切です。そこで，５学年では，中学で学んだ歴史を基礎に，自国の歴史認識を深めるため，日本列島誕生から近世までの日本が歩んできた歴史を，古代中国・朝鮮半島や中世以降のヨーロッパとの関係を把握しながら，日本の文化と伝統の特色を理解し，「歴史的なできごと」に対しての多角的な考察をふまえて，歴史に対する考えを深めていきます。

【育成をめざす学力】

・日本の文化と伝統と現代日本の課題を理解するための日本史の基本的事項を習得する力。
・史料および資料の意味，さらに将来の予測を読み取る力
・歴史の時系列の理解，歴史の過程に見られる「原因・結果・影響」を整理する力
・歴史的な見方や考え方から現代への問題を考えることができる力
・学習活動を通じ，日本史の学習の意義を理解し，学習への興味・関心を喚起する力
・学習活動を通じ，自己の学習状況や学習姿勢を検証し，改善する力

【評価基準・評価項目】

・学習した基本用語を正確に暗記し，表記できる（**社Ａ①**）
・基本用語同士の関係を図式化し，単元の学習内容について整理できる（**社Ａ②**）
・基本用語を使って，単元の学習内容について説明できる（**社Ａ③**）
・単元の学習内容を通じて，各時代の「人間理解」「社会認識」の特殊性・普遍性を判断できる（**社Ｂ①②**）
・各時代の「人間理解」「社会認識」について自分の価値観に照らして評価できる（**社Ｂ③**）
・社会問題から解決課題を発見し，学習内容を活用しながら解決策を提示できる（**社Ｃ①～⑤**）
・学習過程において図版，地図，グラフ，文章等の資料を読み取ることができる（**社Ａ④**）
・学習過程において必要な情報を収集し，図版，地図，グラフ，文章等の資料として提示できる（**社Ｂ④，Ｃ①～⑤**）
・学習成果を通じて，学習内容に関する習得，理解，活用状況を検証し，改善できる（**社Ａ⑤，Ｂ⑤，Ｃ⑥**）
・学習過程を通じて，日本史学習の意義を理解し，興味・関心を喚起できる（**社Ｃ⑦**）

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	第１部 第１章　日本文化のあけぼの	
６月	旧石器・縄文・弥生文化，大和政権の成立	
７月		
８月	第２章律令国家の形成　飛鳥時代，律令国家の成立，平城京の時代	
９月	第３章　貴族政治と国風文化	平安初期の政治・摂関政治 摂関政治，国風文化，荘園と武士
10 月	第２部　第４章　中世社会の成立	院政と平氏政権，鎌倉幕府の成立
11 月		武士の社会，蒙古襲来と幕府の衰退
12 月	第５章　武家社会の成長	室町幕府の成立，幕府の衰退と庶民の台頭
１月		室町文化，戦国大名の登場
２月	第６章　幕藩体制の確立	織豊政権，桃山文化
３月		幕藩体制の成立

教科 科目	地理Ｂ(理系)	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	古賀　彩香

【科目の概要】現代の世界は，かつてないほどに地域間の交流が深まり，それに伴い，経済格差・国際紛争・環境問題・人口問題など解決を迫られた問題が山積している。こうした問題を解決するには，人間世界の発展の歴史という時間を指標にした縦軸と，現在の視点で世界の諸地域の成り立ちや相関連を理解する横軸の視点が必要である。地理では，この横軸として世界各地が　どのような自然的立地条件によって成り立ち，どのような経済・政治状態で発展し，お互いにどのような関連で結びついているかを理解し，それらの狭間で起こっている諸問題について，解決の糸口を探りたい。

【育成を目指す学力】
・学習した基本用語を習得する力、・学習内容を人間理解や社会認識につなげる力。
・世界の国々や地方の，地域の特性について，一般性と特殊性，個別性を理解する力
・地図化された資料，図式化された諸資料を読み取り，その中から問題解決に必要な具体的事実を提示する力
・事象を諸地域との関連上で思考する地理的見方・考え方でとらえ，図式化，地図化する力
・諸地域の個別の学習から，世界規模の課題を発見し，説得力ある改善の方策を探り表示する力

【評価基準・評価項目】
・基本用語を正確に暗記し，表記できる。(A①)
・各地域についての基本用語同士の関係を把握し，図式化できる。（A②）
・提示された資料から，各地域の特徴を読み取り，特徴の判断に必用な情報を抽出できる。（A④）
・各地域の社会観や人間観に対する判断に必用な資料を収集指定時できる。（B④）
・各地域の社会観や人間観を推測し，自分の見かたとして説明できる。（B②）
・地図化された資料，図式化された諸資料を読み取り，その中から問題解決に必要な具体的事実を独自の視点から
考えることができる。（C②）
・学習過程を通じて，地理学習の意義を理解し，興味・関心を喚起できる。（C⑦）

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月 ６月	第Ⅱ部　現代世界の系統地理的考察　　第１章　自然環境 １節　世界の地形　①大地形
７月	②平野地形　③海岸地形　④その他の地形
８月	２節　世界の気候　①気候の成り立ち　②気候区分　③植生と土壌 ３節　日本の自然の特徴と人々の生活　①地形　②気候　③自然災害と防災 ４節　環境問題　①世界の環境問題　②さまざまな環境問題　③日本の環境問題
９月	第一部　さまざまな地図と地理的技能 第１章　地理情報と地図 １節　現代世界の地図 ２節　地図の種類とその利用　①地球儀と地図　②時差の求め方　３節　地理情報の地図化 第２章　地図の活用と地域調査
10月	第２章　資源と産業　１節　産業の発達と変化 ２節　世界の農林水産業　①②農業区分　③現状と課題　④林業・漁業　⑤日本の農林水産業 ３節　食料問題　①世界の食料問題　②さまざまな食料問題　③日本の食料問題
11月	４節　世界のエネルギー・鉱産資源　　①エネルギー　　②鉱産資源 ５節　資源・エネルギー問題　①②現代の問題　　③日本の資源・エネルギー問題
12月	６節　世界の鉱業　①鉱業の発達と立地　　②各種工業　　③現状と課題　④日本の工業 ７節　第三次産業　①第三次産業の発展　②世界の観光業
１月	８節　世界を結ぶ交通・通信　①世界の交通網　②情報と通信 ９節　現代社会の貿易と経済圏　①生活を支える貿易　②現状と課題　③日本の現状と課題
２月	第１章　人口、村落・都市 １節　世界の人口 ２節　人口問題　①世界の人口問題　②発展途上国の人口問題　③④先進国・日本の人口問題 ３節　村落と都市　①集落の成り立ち　②形態と機能　③機能と生活　④日本の都市 ４節　都市・住居問題　①世界の都市・住居問題　②日本の都市・住居問題
３月	第２章　生活文化、民族・宗教 １節　生活文化　①②生活文化の地域差異・画一化　③日本の生活文化 ２節　民族と宗教　①民族・言語　②宗教

教科・科目	数学・数学Ⅱ	学年	５年文系（進学コース）	単位	４単位（＋1）	担当	出来　三博 上原　浩明

【科目の概要】数学Ⅱは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目である。複素数まで数の世界を拡張し、方程式の解を発展的にとらえ高次方程式を解いたり、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理し活用できるようにする。また三角関数や指数関数、対数関数などの関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。最終章では、微分･積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）

②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（F）

③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）

④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)

高次方程式　①「多項式空間」と「数の空間」の違い ②剰余定理・因数定理　③次数降下法　④代数学の基本定理　⑤n 乗根(円周等分当分多項式)　**図形と方程式**　①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係　②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2 直線の関係」「円と直線の関係」「2 円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方と「グラフ」の考え方　⑤「領域」　⑥線形計画法　**三角関数**　①角の拡張（一般角，弧度法）　②三角比の拡張（定義）　③三角関数の意味　④三角関数の性質（相互関係・周期）⑤三角関数のグラフ（グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握）　⑦三角関数の性質（周期・対称性）⑧三角方程式・不等式　⑨正弦・余弦・正接の加法定理　⑩２倍角・半角の定理　⑪三角関数の合成　※2 直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する　**指数関数と対数関数**　①指数と対数の関係　②指数の自然数から実数への拡張　③指数関数の定義と性質　④指数方程式・不等式　⑤逆関数　⑥指数関数の逆関数としての対数関数　⑦対数関数の性質　⑦対数法則　⑧対数方程式・不等式　⑨常用対数とその活用　**微分と積分Ⅱ**　①「微分」の基本的な考え方(ライプニッツ＆ニュートン)　②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」(接線の傾き）の定義→「導関数」の定義　③「微分」の定義　④「微分」の線形性　⑤形式微分　⑥「接線」導　⑦関数の「増減表」とグラフ　⑧関数の最大・最小問題　⑨方程式と不等式の「微分」による解析　⑩「原始関数」「不定積分」　⑪積分と面積　⑫「微積分の基本定理」

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	第１章　式と証明 第１節　式と計算（3 次式の展開と因数分解、二項定理）
６月	第１章　式と証明 第１節　式と計算（二項定理、整式の割り算、分数式の計算、恒等式） 第２節　等式と不等式の証明（等式の証明、不等式の証明）
７月	第２章　複素数と方程式 第１節　複素数と２次方程式の解（複素数とその計算、２次方程式の解、解と係数の関係）
８月	第２節　高次方程式（剰余の定理と因数定理、高次方程式）章末問題 第３章　図形と方程式 第１節　点と直線（直線の方程式、２直線の関係、２直線の交点を通る直線、補充問題）
９月	第２節　円（円の方程式、円と直線、２つの円） 第３節　軌跡と領域（軌跡と方程式・不等式を表す領域）章末問題
10 月	第４章　三角関数 第１節　三角関数（角の拡張、三角関数、グラフ、性質、方程式・不等式、補充問題） 第２節　加法定理（三角関数の加法定理、加法定理の応用、和と積の公式）章末問題
11 月	第５章　指数関数と対数関数 第１節　指数関数（指数の拡張、指数関数、補充問題） 第２節　対数関数（対数とその性質・対数関数・常用対数、補充問題）章末問題
12 月	第６章　微分法と積分法 第１節　微分係数と導関数(微分係数・導関数とその計算・接線の方程式)
１月	第２節　関数の値の変化（関数の増減と極値・関数の増減・グラフの応用）
２月	第３節　積分法（不定積分・定積分）
３月	第３節　積分法（図形の面積と定積分）

教科・科目	数学・数学Ⅱ	学年	５年文系 （特進コース）	単位	４単位＋１	担当	萱田　真史

【科目の概要】数学Ⅱは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目である。複素数まで数の世界を拡張し、方程式の解を発展的にとらえ高次方程式を解いたり、直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理し活用できるようにする。また三角関数や指数関数、対数関数などの関数についての理解を深めそれらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。最終章では、微分･積分の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化を調べることや面積を求めることができるようにする。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）

②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（F）

③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）

④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】（下記の事柄を理解し活用することが出来るか）

式と証明　①3 次式の展開と因数分解　②二項定理　③整式の割り算　④分数式　⑤恒等式　⑥等式・不等式の証明 **高次方程式**　①「多項式空間」と「数の空間」の違い ②剰余定理・因数定理　③次数降下法　④代数学の基本定理　⑤n 乗根(円周等分当分多項式)　**図形と方程式**　①「座標平面」の発明と「代数方程式」の関係　②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2 直線の関係」「円と直線の関係」「2 円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方と「グラフ」の考え方　⑤「領域」　⑥線形計画法　**三角関数**　①角の拡張（一般角，弧度法）　②三角比の拡張（定義）　③三角関数の意味　④三角関数の性質（相互関係・周期）⑤三角関数のグラフ（グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握）⑦三角関数の性質（周期・対称性）⑧三角方程式・不等式　⑨正弦・余弦・正接の加法定理　⑩２倍角・半角の定理　⑪三角関数の合成　※2 直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する　**指数関数と対数関数**　①指数と対数の関係 ②指数の自然数から実数への拡張　③指数関数の定義と性質　④指数方程式･不等式　⑤逆関数　⑥指数関数の逆関数としての対数関数　⑦対数関数の性質　⑦対数法則　⑧対数方程式・不等式　⑨常用対数とその活用　**微分と積分Ⅱ** ①「微分」の基本的な考え方(ライプニッツ＆ニュートン）　②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」（接線の傾き）の定義→「導関数」の定義　③「微分」の定義　④「微分」の線形性　⑤形式微分　⑥「接線」導　⑦関数の「増減表」とグラフ　⑧関数の最大・最小問題　⑨方程式と不等式の「微分」による解析　⑩「原始関数」「不定積分」　⑪積分と面積　⑫「微積分の基本定理」

【年間指導単元・内容と学習活動】

４・５月	第１章　式と証明　第１節　２項定理　恒等式　　第２節　等式・不等式の証明
６・７月	第２章　複素数と方程式 第１節　複素数と２次方程式の解第２節　高次方程式
８月	第３章　図形と方程式 第１節　点と直線 第２節　円　　第３節　軌跡と領域
９月	第４章　三角関数 第１節　三角関数　　第２節　加法定理
１０月	第５章　指数関数と対数関数 第１節　指数関数（指数の拡張・指数関数） 第２節　対数関数（対数とその性質・対数関数・常用対数）
11 月	第６章 微分法と積分法 第１節 微分係数と導関数
12 月	(微分係数・導関数とその計算・接線の方程式)
１月	第２節 関数の値の変化　（関数の増減と極大・極小・関数の増減・グラフの応用） 第３節 積分法（不定積分・定積分・図形の面積と定積分）
２月	数ⅡＢの総合演習
３月	数ⅡＢの総合演習

教　科 科　目	数学Ⅱ・Ⅲ	学 年	５年理系	単 位	４単位＋１	担 当	村瀬　泉・脇田　祥弥

【科目の概要】数学Ⅱ・数学Ⅲは高等数学の最も基礎となる重要な科目である。内容は、「整式」「代数方程式の解の理論」「代数と幾何学」という代数学の基礎、「初等関数(指数・対数関数)」「微分積分」という解析学の基礎を担う科目であり、理系としては特に「知識」「思考方法」の何れも高度な学力を身につけなければならない。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）

②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（Ｆ）

③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）

④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】(下記の事柄を理解し活用することが出来るか)

式と証明　①展開と因数分解(二項定理) ②証明とは何か　③証明方法　④不等式の性質　⑤不等式と最大･最小問題の関わり　⑥(相加平均)≧(相乗平均)の関係　⑦コーシー･シュワルツの不等式　**複素数と方程式**　①複素数とその計算　②2次方程式の解　③解と係数の関係　④「多項式空間」と「数の空間」の違い ⑤剰余定理・因数定理　⑥組み立て除法　⑦次数降下法　⑧代数学の基本定理　⑨n 乗根(円周等分多項式)　**図形と方程式**　①「座標平面」と「代数方程式」の関係 ②「点」「直線」「円」「点と線の関係」「2 直線の関係」「円と直線の関係」「2 円の関係」「共有点を通る直線・円」③「軌跡」の考え方　④「領域」　⑤線形計画法　**三角関数**　①角の拡張（一般角，弧度法）　②三角比の拡張（定義）　③三角関数の意味　④三角関数の性質（相互関係・周期）⑤三角関数のグラフ（グラフの平行移動・拡大縮小の完全把握）　⑦三角関数の性質（周期・対称性）⑧三角方程式・不等式　⑨正弦・余弦・正接の加法定理　⑩２倍角・半角の定理　⑪三角関数の合成　⑫和積変換・積和変換　※2 直線のなす角・扇形の面積などへの応用も特化する　**指数関数と対数関数**　①指数と対数の関係　②指数の自然数から実数への拡張　③指数関数の定義と性質　④指数方程式・不等式　⑤逆関数　⑥指数関数の逆関数としての対数関数　⑦対数関数の性質　⑦対数法則　⑧対数方程式・不等式　⑨常用対数とその活用 **微分法と積分法Ⅱ**　①「微分」の基本的な考え方(ライプニッツ＆ニュートン)　②「平均変化率」の定義→「極限」概念の導入→「変化率」「微分係数」(接線の傾き）の定義→「導関数」の定義　③「微分」の定義　④「微分」の線形性　⑤形式微分　⑥「接線」　⑦導関数と増減表とグラフ　⑧関数の最大・最小問題　⑨方程式と不等式の「微分」による解析 ⑩「原始関数」「不定積分」　⑪積分と面積　⑫「微積分の基本定理」　⑬回転体の体積 **微分法Ⅲ** ①極限 ②関数の極限・不定形 ③導関数の再定義（無限小量）　④微分の基本的性質　⑤合成関数の微分　⑥ネイピア数の定義 ⑦指数関数・対数関数・三角関数の微分　⑦符号表から増減表へ

【年間指導単元・内容と学習活動】

4月	数Ⅱ 第１章　１節　式と計算
5月	数Ⅱ 第１章　２節 等式・不等式の証明
6月	数Ⅱ 第２章　１節 複素数と方程式
7月	数Ⅱ 第２章　２節 高次方程式　　第３章　図形と方程式　１節 点と直線
8月	数Ⅱ 第３章　図形と方程式　２節 円　３節 軌跡と領域
9月	数Ⅱ 第４章　三角関数　１節 三角関数　２節 加法定理
10月	数Ⅱ 第５章　指数関数と対数関数　１節 指数関数　２節 対数関数
11月	数Ⅱ 第６章 微分法と積分法　１節 微分係数と導関数　２節 関数の値の変化
12月	数Ⅱ 第６章 微分法と積分法　３節 積分法
1月	数Ⅱ 第６章 微分法と積分法　３節 積分法　総合問題と数Ⅲへの導入
2月	数Ⅲ 第２章 第２節 関数の極限　第３章 微分法　１節 導関数
3月	数Ⅲ 第３章 いろいろな関数の導関数　第４章 導関数の応用

教　科 科　目	数学Ｂ	学 年	５年文系 （進学コース）	単 位	２単位	担当	出来　三博

【科目の概要】数学Ｂでは「ベクトル」と「数列」を扱う。ベクトルは 19 世紀の後半から、物理と数学の 2 つの学問の流れの中で誕生した抽象概念で、高校の教材としては歴史的に最も新しいものの一つである。ベクトルについての基本的な概念を理解し，図形の性質や関係をベクトルを用いて表現したり，いろいろな事象の考察に活用できるようにする。「数列」では簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解しそれらを用いて数学的に考察し処理できるようにする。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。
進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）
②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（F）
③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）
④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】（下記の事柄を理解し活用することが出来るか）

ベクトル　①ベクトルの概念の理解と表現方法 ②零・逆ベクトルと演算の導入 ③位置ベクトルと分解 ④一次独立と一次従属 ⑤内積の定義と性質 ⑥分点の位置ベクトル ⑦直線のベクトル方程式 ⑧ベクトルの表す領域　⑨平面ベクトルの空間への拡張（空間ベクトル）⑩空間座標　⑪空間の図形の代数方程式（面・球）　⑫「直線と直線」「平面と直線」「球と直線」「球と平面」　**数列** ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列（一般項・漸化式・和）③等比数列（一般項・漸化式・和）　④自然数の平方和・立方和　⑤Σ記号 ⑥分数式の和 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨和→一般項
⑩漸化式　⑪数学的帰納法

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	
５月	実力考査
６月	第１章　平面上のベクトル 第１節 ベクトルとその演算 第２節 ベクトルと平面図形（位置ベクトル・図形への応用）　中間考査
７月	ベクトルと平面図形（図形への応用～直線のベクトル方程式の応用）　期末考査 第２章　空間のベクトル　（空間の点・空間のベクトル・ベクトルの成分）　進研模試
８月	空間のベクトル　（ベクトルの内積・位置ベクトル・座標空間における図形）　実力考査
９月	空間のベクトル　（ベクトルの内積・位置ベクトル・座標空間における図形）
10 月	演習問題　中間考査
11 月	第３章　数列　進研模試 第１節　等差数列と等比数列（数列と一般項・等差数列）　期末考査
12 月	第１節 等差数列と等比数列　（等差数列の和・等比数列・等比数列の和） 第２節 いろいろな数列　（和の記号・階差数列・いろいろな数列の和）
１月	いろいろな数列　（階差数列・いろいろな数列の和）　実力考査・進研模試
２月	第１節　数学的帰納法　（漸化式・数学的帰納法） 数ⅡＢの総合演習
３月	数ⅡＢの総合演習

教　科 科　目	数学Ｂ	学 年	５年文系 （特進コース）	単 位	２単位	担 当	萱田　真史

【科目の概要】数学Ｂでは「ベクトル」と「数列」を扱う。ベクトルは 19 世紀の後半から、物理と数学の 2 つの学問の流れの中で誕生した抽象概念で、高校の教材としては歴史的に最も新しいものの一つである。ベクトルについての基本的な概念を理解し，図形の性質や関係をベクトルを用いて表現したり，いろいろな事象の考察に活用できるようにする。「数列」では簡単な数列とその和及び漸化式と数学的帰納法について理解しそれらを用いて数学的に考察し処理できるようにする。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）

②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（F）

③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）

④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】（下記の事柄を理解し活用することが出来るか）

ベクトル　①ベクトルの概念の理解と表現方法 ②零・逆ベクトルと演算の導入 ③位置ベクトルと分解 ④一次独立と一次従属 ⑤内積の定義と性質 ⑥分点の位置ベクトル ⑦直線のベクトル方程式 ⑧ベクトルの表す領域　⑨平面ベクトルの空間への拡張（空間ベクトル）⑩空間座標　⑪空間の図形の代数方程式（面・球）　⑫「直線と直線」「平面と直線」「球と直線」「球と平面」　**数列** ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列（一般項・漸化式・和）③等比数列（一般項・漸化式・和）④自然数の平方和・立方和　⑤Σ記号 ⑥ホイヘンスの問題 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨ $S_n \to a_n$ ⑩漸化式　⑪数学的帰納法

【年間指導単元・内容と学習活動】

４・５月	第１章　平面上のベクトル 第１節　ベクトルとその演算（ベクトルの意味・演算・成分・内積）
６月	
７月	第２節ベクトルと平面図形　（位置ベクトル・図形への応用・ベクトル方程式）
８月	第２章　空間のベクトル 空間ベクトル・ベクトル図形への応用
９月	第３章　数列 第１節　等差数列と等比数列（一般項と和）
10 月	第１節　等差数列と等比数列（一般項と和） 第２節　いろいろな数列 （和の記号Σ・階差数列・いろいろな数列の和）
11 月	第２節　いろいろな数列 （和の記号Σ・階差数列・いろいろな数列の和）
12 月	第３節　数学的帰納法 （漸化式・数学的帰納法による証明）
１月	数学的帰納法 （漸化式・数学的帰納法による証明）
２月	数ⅡＢの総合演習
３月	数ⅡＢの総合演習

教　科 科　目	数学Ｂ・数学Ⅲ	学年	５年理系	単位	２単位+1	担当	村瀬　泉・脇田　祥弥

【科目の概要】数学Ｂでは「ベクトル」と「数列」を扱う。ベクトルは 19 世紀の後半から、物理と数学の 2 つの学問の流れの中で誕生した抽象概念で、高校の教材としては歴史的に最も新しいものの一つである。これを学習し、理科では「物理」への応用、数学では数Ⅲの「複素数平面」「曲線の長さ」へと繋げていく。数Ｂの「数列」は数Ⅲの「無限数列」と繋げ、数Ⅲの「積分」の基礎（区分求積法）として徹底する。数Ⅲの「式と曲線」は微分・積分を用いての解析の対称としての準備として行う。

【育成をめざす学力】数学が高度に抽象化されていくプロセスを体験しながら、数学的読解力・思考力を育てる。進路に向けては、国立大２次試験に十分対応できる基礎学力と応用力を養う。

①基本的な概念、原理･法則、用語･記号などを理解し，基礎的な知識を習得し活用できる力（A）

②色々な事象を数学的に考察して的確に情報を取り出す力（C）、取り出した情報を表現できる力（C）、熟考して処理する仕方や推論の方法を身に付け的確に問題を解決できる力（ＢＤＥ）・表現できる力（F）

③数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ論理的に考える力（D）

④数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用する力（G）

【評価基準・評価項目】（下記の事柄を理解し活用することが出来るか）

ベクトル　①ベクトルの概念の理解と表現方法 ②零・逆ベクトルと演算の導入 ③位置ベクトルと原点に関する分解 ④一次独立と一次従属 ⑤内積の定義と性質 ⑥分点の位置ベクトル ⑦直線のベクトル方程式 ⑧ベクトルの表す領域　⑨平面ベクトルの空間への拡張（空間ベクトル）⑩空間座標　⑪空間の図形の代数方程式（面・球）　⑫「直線と直線」「平面と直線」「球と直線」「球と平面」　**数列Ⅱ** ①「数列」の理解と表現方法 ②等差数列（一般項・漸化式・和）③等比数列（一般項・漸化式・和）④自然数の平方和・立方和　⑤Σ記号 ⑥ホイヘンスの分解 ⑦群数列 ⑧階差数列 ⑨ $S_n \to a_n$ ⑩漸化式　⑪数学的帰納法 **数列Ⅲ** ①数列の極限（はさみうちの原理）　②無限等比級数 ③漸化式で表された数列の極限 ④無限等比級数　**式と曲線**　①2 次曲線（放物線・楕円・双曲線）②2 次曲線の一般形 ③極方程式

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	数Ｂ 第１章　平面のベクトル １節 ベクトルとその演算 ２節 ベクトルと平面図形
５月	
６月	
７月	数Ｂ 第１章　平面のベクト ２節 ベクトルと平面図形補充（数Ⅱ 第３章 １節点と直線　との融合） 数Ｂ 第２章　空間ベクトル
８月	
９月	数Ｂ 第２章　空間ベクトル
10 月	数Ｂ 第３章　数列
11 月	数Ｂ 第３章　数列
12 月	数Ｂ演習と補充
１月	数学Ⅲ 第２章１節 数列の極限
２月	数Ⅲ 第１章 複素数平面
３月	数Ⅲ 第３章 関数

教　科 科　目	物理	学 年	５年	単 位	３単位	担 当	井上　雄二

【科目の概要】

自然の事物や現象についての理解を深め，人間生活とのかかわりを考えることを主眼において，物理学的に探究する能力と態度を育て，同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。物理Ⅰでは，身のまわりの物理的な現象を簡略化した図式（モデル化）にすることができることを身につけ、そして、そのモデルから簡単な数式（文字式）で書きあらわし，実際に物理現象を数式によって説明できるようにする。

【育成をめざす学力】

- 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって，科学的に物事をとらえようとする力
- 自然の事物や現象の知識を身につけ，自然のしくみや法則等を理解することのできる力
- 実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正しく表現する力
- 知識と与えられた条件から予想する力
- 現象のモデル化，グラフ化を行い，文字式を用いて数的処理をし，科学的に考えることができる力
- 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し，分析したり考察したりする力

【評価基準・評価項目】

・日常生活で見られる事象や現象を物理的に説明することができる。
・正確に計算し，適切な単位をつけて表記することができる。
・モデルやグラフ，文字式を用いた数的処理を行い，日常の物理現象を説明することができる。
・観察・実験の過程，結果および考察を論文形式の報告書にまとめることができる。
・前時の授業内容を問う論述小テストで学習の成果を発揮することができる。
・物理の知識を活用して，自然の事物や現象や最新の科学技術や研究成果を説明することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	**3-1　波の性質　（波と媒質の運動、波の伝わり方）** **3-2　音　（音の性質、発音体の振動と共振・共鳴）**
５月	
６月	
７月	Ⅲ－②　音の伝わり方（音の伝わり方・音のドップラー効果）
８月	Ⅲ－③　光（光の性質、レンズ、光の干渉と回折）
９月	Ⅲ－①　波の伝わり方（正弦波、波の伝わり方）
10 月	**４-1　電気**，Ⅳ－②　電流（**電気の性質、電流と電気抵抗、電気とエネルギー**，直流回路）
11 月	Ⅰ－①　平面内の運動（速度、加速度、落体の運動）
12 月	Ⅰ－②　剛体（力のつりあいと重心）
１月	Ⅰ－③　運動量の保存（運動量と力積、運動量保存則、反発係数）
２月	Ⅰ－④　円運動と万有引力（等速円運動、慣性力、単振動、万有引力）
３月	Ⅱ－①　気体のエネルギーと状態変化（気体の法則、気体分子の運動、気体の状態変化）

教　科 科　目	生　物	学 年	５年理	単 位	３単位	担 当	廣田　裕枝

【科目の概要】

生物学は、私たちにとって最も身近な科学です。なぜならそれは、生物としての自分自身を知ることであり、そこから見えてくる普遍的な生命現象を理解することだからです。最近の科学の進歩はめざましく、医療や遺伝子工学、環境科学の技術は一般人の理解を超えているように思われがちです。しかし、生物基礎で学んだことを基盤に、生物の授業の中でさらに深く知識や原理を学んでいくことによって、それらを理解し、身近なものとして考えられるようになるはずです。ぜひ、身の回りの自然現象や最先端の科学に興味を持ち、楽しんで授業を受けてください。

【育成をめざす学力】

興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。知識と与えられた条件から予想する力。

自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。

学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。

資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力分析したり考察したりする力。

根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。

【評価基準・評価項目】

授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。

基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。

知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。

観察・実験の目的や内容を理解し、的確に行うことができる。また、その結果を予測し、結果に対して科学的な考察を行うことができる。実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	○生命現象と物質	・生命と物質
５月		・代謝
６月		
７月		・遺伝情報の発現
８月		・遺伝情報の発現
９月	○生殖と発生	・生殖と発生
10 月		・生殖と発生
11 月		・生殖と発生
12 月	○生物の環境応答	・動物の反応と行動
１月		・動物の反応と行動
２月		・植物の環境応答
３月		・植物の環境応答

教　科 科　目	物理基礎	学 年	５年 (進学コース)	単 位	２単位	担 当	挾間田　一誠

【科目の概要】

自然の事物や現象についての理解を深め，人間生活とのかかわりを考えることを主眼において，物理学的に探究する能力と態度を育て，同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。物理基礎では，身のまわりの物理的な現象を簡略化した図式（モデル化）にすることができることを身につけ、そして、そのモデルから簡単な数式（文字式）で書きあらわし，実際に物理現象を数式によって説明できるようにする。

【育成をめざす学力】

- 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって，科学的に物事をとらえようとする力
- 自然の事物や現象の知識を身につけ，自然のしくみや法則等を理解することのできる力
- 実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正しく表現する力
- 知識と与えられた条件から予想する力
- 現象のモデル化，グラフ化を行い，文字式を用いて数的処理をし，科学的に考えることができる力
- 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し，分析したり考察したりする力

【評価基準・評価項目】

・日常生活で見られる事象や現象を物理的に説明することができる。
・正確に計算し，適切な単位をつけて表記することができる。
・モデルやグラフ，文字式を用いた数的処理を行い，日常の物理現象を説明することができる。
・観察・実験の過程，結果および考察を論文形式の報告書にまとめることができる。
・前時の授業内容を問う小テストで学習の成果を発揮することができる。
・物理の知識を活用して，自然の事物や現象や最新の科学技術や研究成果を説明することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月 ６月 ７月	**数学的導入** 二次方程式、式変形、グラフ **第１章　物体の運動** １節　運動の表し方：等速直線運動、速度と変位、速度の合成、相対速度、加速度、 等加速度直線運動、自由落下運動、鉛直投げ上げ運動、鉛直投げ上げ運動
８月 ９月	２節　力：力の合成・分解、力のつり合い、作用反作用、摩擦力、圧力と浮力 ３節　運動の法則：慣性の法則、運動の法則、運動方程式、いろいろな力を受ける運動
10 月 11 月 12 月	**第２章　エネルギー** １節　運動とエネルギー：仕事、仕事の原理と仕事率 １節　運動とエネルギー：運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存の法則
１月 ２月 ３月	２節　熱とエネルギー：熱と温度、熱容量と比熱、物質の三態 熱とエネルギー：熱と仕事、熱と仕事の変換

教　科 科　目	物理基礎	学 年	５年 (特進コース)	単 位	２単位	担 当	井上　雄二

【科目の概要】

自然の事物や現象についての理解を深め，人間生活とのかかわりを考えることを主眼において，物理学的に探究する能力と態度を育て，同時に基本的な概念や原理・法則を理解する。物理基礎では，身のまわりの物理的な現象を簡略化した図式（モデル化）にすることができることを身につけ、そして、そのモデルから簡単な数式（文字式）で書きあらわし，実際に物理現象を数式によって説明できるようにする。

【育成をめざす学力】

- 身近な現象から先端技術にいたるまで興味や関心をもって，科学的に物事をとらえようとする力
- 自然の事物や現象の知識を身につけ，自然のしくみや法則等を理解することのできる力
- 実験における技能を習得し、その結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正しく表現する力
- 知識と与えられた条件から予想する力
- 現象のモデル化，グラフ化を行い，文字式を用いて数的処理をし，科学的に考えることができる力
- 資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解し，分析したり考察したりする力

【評価基準・評価項目】

・日常生活で見られる事象や現象を物理的に説明することができる。
・正確に計算し，適切な単位をつけて表記することができる。
・モデルやグラフ，文字式を用いた数的処理を行い，日常の物理現象を説明することができる。
・観察・実験の過程，結果および考察を論文形式の報告書にまとめることができる。
・前時の授業内容を問う小テストで学習の成果を発揮することができる。
・物理の知識を活用して，自然の事物や現象や最新の科学技術や研究成果を説明することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月 ６月	**第１章　物体の運動** １節　運動の表し方：等速直線運動、速度と変位、速度の合成、相対速度、加速度、 等加速度直線運動、自由落下運動、鉛直投げ下し運動、鉛直投げ上げ運動
７月 ８月	２節　力：力の合成・分解、力のつり合い、作用反作用、摩擦力、圧力と浮力
９月	３節　運動の法則：慣性の法則、運動の法則、運動方程式、いろいろな力を受ける運動
10 月	**第２章　エネルギー** １節　運動とエネルギー：仕事、仕事の原理と仕事率
11 月	１節　運動とエネルギー：運動エネルギー、位置エネルギー、力学的エネルギーの保存の法則
12 月	２節　熱とエネルギー：熱と温度、熱容量と比熱、物質の三態
１月	２節　熱とエネルギー：熱と仕事、熱と仕事の変換
２月	**第３章　波** １節　波の性質：波の性質、横波と縦波、波の重ね合わせの原理、波の反射
３月	２節　音と振動：音の伝わり方

教　科 科　目	化学	学 年	５年理	単 位	２単位	担 当	山内　かな子

【科目の概要】

化学では、理論化学・無機物質・有機化合物を学びます。理論化学で、基本的な概念や原理・法則への理解を深めることで、無機物質や有機化合物を化学的な視点でとらえることができます。日常生活における化学について興味や疑問をもち、思考する習慣をつけましょう。これらの学びを通して、化学と社会との関わりや、化学の役割について考えていきましょう。

【育成をめざす学力】

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的に考える力
(2) 文章・図・グラフを読み取る力
(3) 自身の考えや思考プロセスを適切な方法で表現する力
(4) 興味関心をもって、自ら学ぶ姿勢
(5) 他者を尊重し、共同学習する姿勢
(6) 安全に配慮し、実験・観察を行う姿勢

【評価基準・評価項目】

(1) 化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、化学的に考えることができる
(2) 文章・図・グラフを読み取ることができる
(3) 自身の考えや思考プロセスを適切な方法で表現することができる
(4) 興味関心をもって、自ら学ぶことができる
(5) 他者を尊重し、共同学習することができる
(6) 安全に配慮し、実験・観察を行うことができる

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月 ５月	１章　物質の状態と平衡 １節　状態変化
６月	２節　気体の性質
７月	３節　固体の構造　　４節　溶液
８月	２章　物質の変化と平衡 １節　化学反応と熱・光エネルギー
９月	酸化還元反応 ２節　化学反応とエネルギー
10 月	２節　化学反応とエネルギー
11 月	３節　反応の速さとしくみ
12 月	４節　化学平衡
１月	４節　化学平衡
２月	３章　無機物質 １節　周期表　　２節非金属元素
３月	２節　非金属元素

教　科 科　目	理科演習①(化基)	学 年	５年文選	単 位	１単位	担 当	遠藤　康志

【科目の概要】

５年次の化学基礎では、化学の基礎となる原子・分子・イオンの概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し、生活に関連した科学的自然観や思考力を身につけていきます。理科演習では、化学基礎の授業の内容をさらに深め，さらなる理解を目指します。

【育成をめざす学力】

・興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力
・自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力
・学習方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力
・観察・実験の結果を科学的な考察を交え、文章や図・グラフ等を用いて正確に表現する力
・根気強く、速く、正確に計算する力
・単位の意味を理解し、正しく活用することができる力
・文字式を活用することができる力
・資料(文章・グラフ・表など)を正確に読解する力
・分析したり考察したりする力
・複数の単元で学習した内容を組み合わせて活用する力

【評価基準・評価項目】

・科学的な見方や考え方で日常生活をとらえることができる。
・現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。
・身近な事物・現象に関する知識を身につけ、日常生活との関連を見いだすことができる。
・モデルや図などを活用して、基本的な概念の理解を深めることができる。
・科学的な見方や考え方で理科に対する知識を深め、日常生活や自然とのかかわりをより深く理解することができる。
・基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。
・モデル化、グラフ化などの方法を用いて、身近な事物や現象を科学的に考えることができる。
・モデル化して現象を説明したり、グラフ化したものから規則性を読み取ったりすることができる。
・最新の科学技術や研究成果について理解を示すことができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	２編　物質の変化　　第３章　酸化還元反応　　酸化・還元の定義
５月	酸化数・酸化剤・還元剤
６月	酸化剤と還元剤の反応　反応の量的関係
７月	金属のイオン化傾向、電池
８月	金属の製錬
９月	第１章　物質の構成　　演習
10 月	第２章　物質の構成粒子　　演習
11 月	第３章　粒子の結合　　演習
12 月	第１章　物質量と化学反応式　演習
１月	第２章　酸と塩基の反応　　演習
２月	第３章　酸化還元反応　　演習
３月	計算問題の演習

教　科 科　目	理科演習②(生基)	学 年	５年文選	単 位	１単位	担 当	廣田　裕枝

【科目の概要】

４年次の生物基礎では、生物と遺伝子、生物の体内環境の維持、生物の多様性と生態系について学習しました。理科演習では、生物基礎の内容の演習をおこない、大学入試に備えてさらに理解を深めていくことを目指します。

【育成をめざす学力】

興味や関心をもって身近な現象や先端技術をとらえようとする力。

自然の事物や現象の知識を身につけ、自然のしくみや法則等を理解することのできる力。

学習の方法やその工夫を考え基本事項を正確に理解し、定着させる力。

資料（文章・グラフ・表など）を正確に読解する力。分析したり考察したりする力。

根気強く、速く、正確に計算する力。単位の意味を理解し、正しく活用することができる力。

【評価基準・評価項目】

授業で学習した内容を正しく理解し、これまでの学習内容や身の回りの自然現象との関連付けができる。

基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもつことができる。自然や生命を尊重する姿勢をもっている。

最新の技術や研究成果について理解を示すことができる。知識や自分の考えを文章で的確に表現することができる。

現在および将来における科学の課題と人間生活のかかわりを考えることができる。

実験データなどをグラフ化したものなどから規則性を読み取ることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	教科書　第４部　第３章　生態系とその保全
５月	必修アクセス　第１章　生物と遺伝子　　演習
６月	
７月	演習
８月	演習
９月	演習
10 月	第２章　生物の体内環境の維持　　演習
11 月	演習
12 月	演習
１月	第３章　生物の多様性と生態系　　演習
２月	演習
３月	演習

教　科 科　目	音楽Ⅱ	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	佐野　智江

【科目の概要】

５年次より音楽は選択教科となり、授業は週１回２時間連続の形態をとります。本科目では、授業内容に歌唱，合奏，創作といった表現活動を多く取り入れています。このような活動を通し、積極的，意欲的に音楽を表現する楽しさを体験します。またその中に個性豊かな音楽表現が出来る機会を多く作っていきます。

【育成をめざす学力】

・積極的，意欲的に音楽活動に携わる能力。

・個性豊かに音楽表現が出来る能力。

【評価基準・評価項目】

・　意欲的に授業に参加できる。

・　適切な音楽表現をすることができる。

・　音楽の様々な表現方法を理解することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４・５月	表現の楽しさを味わう　音楽基礎知識の復習 世界の歌に親しむ　創作活動
６月	ミュージカルについて　ドイツ歌曲に親しむ　確認テスト　実技テスト
７・８月	合唱、合奏活動
９月	イタリア歌曲に親しむ　楽曲の種類について
10 月	ピアノの歴史　ピアノ協奏曲の鑑賞　オペラについて
11・12 月	音階について　合奏活動　確認テスト　実技テスト クリスマス礼拝に向けて（ハレルヤコーラス）
１月	音楽用語のまとめ　ピアノ演習
２月	音楽理論　確認テスト　実技テスト　創作活動
３月	１年間のまとめ

教　科 科　目	美術Ⅰ	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	竹富　栄治

【科目の概要】

陰影と色彩を用いた表現の方法を学び、平面上における立体や空間表現の技術を習得します。さらに絵の具、筆、紙、キャンバス等道具の組成を理解し、制作を通してそれらの特性を生かした表現方法を習得します。また鑑賞を通して絵画表現やデザイン表現の多様性を学びます。

【育成をめざす学力】

- 民族・地域・時代による価値の違いに興味関心を持ち理解する力
- 目標を設定し実現のために計画的に行動する力
- 道具・表現手段等を目的に応じて使いこなす力
- 表現することに意味を見出し、有効な表現手段を用いて計画的に表現する力

【評価基準・評価項目】

- 時代ごとの美術の特徴を理解し、それぞれの良さを味わうことができる
- 生活を美しく豊かにするデザインの働きを理解し、その良さを味わうことができる
- 表現方法を工夫し、計画的に制作に当たることができる
- 豊かな発想で構想し、目標実現に努力することができる
- 技術を尊びその習得に努力することができる

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	表現手段としての美術（オリエンテーション） 観察と表現 　　人物クロッキー・風景を描く・明暗で立体を描く・石膏デッサン 絵の具を知る 身近なものを油彩で描く 構図を考える・油彩の特徴を味わいながら描く
５月	
６月	
７・８月	
９月	さまざまなデザイン表現を学ぶ 　　デザイン史・色彩・プロダクト・空間・文字・建築・ファッション・情報 イラストレーションを描く 　　方法の決定とプランニング 　　制作・完成・鑑賞
10月	
11月	
12月	美術表現の歴史を学ぶ 　　東洋・西洋美術 　　映像メディア表現
１月	
２月	
３月	

教　科 科　目	書道　Ⅰ	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	中島　啓子

【科目の概要】

書に関する見方や考え方を身につけ、書の伝統文化、生活や社会の中での文字や書についての学びを広げます。書道Ⅰでは楷書、行書、隷書、仮名、篆刻、漢字仮名交じりの書を学習します。単元ごとに臨書、創作、作品鑑賞を行います。積極的に取り組み、個性的な作品を制作する中で「自ら学び、自ら考える力」をつけます。

【育成をめざす学力】

書の表現の方法や形式、多様性などについて理解し書写能力を高める。
表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化について理解を深める。
自らの意図に基づいて構想し、書表現の工夫、効果的な技能を身につける。
他者に対して常に思いやりの心を持ち、より良い人間関係を築く姿勢を身につけ、
道徳的判断力や、実践力を養う。

【評価基準・評価項目】

書道史をふまえ、単元ごとの基礎的な用筆法を身につけ創意工夫しながら表現できた。
小テストを含め、自主的かつ積極的に学習活動を行い、理論を身につけることができた。
言葉遣いや行動が他者への配慮をもって行われ、協調性をもって機敏に行われた。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	漢字の書　楷書　孔子廟堂碑　天河　九成宮禮泉銘　清泉　書体と書風　唐の四大家 牛橛造像記　妙楽　雁塔聖教序　春光　時代による書風の違い
５月	
６月	
７月	篆刻　雅印　漢字用印
８月	仮名用印
９月	行書　風信帖　恵風　日本の行書　三筆と三跡
10月	行書　蘭亭序　天朗気清　中国の行書 王羲之とその書風
11月	仮名　いろは 単体と連綿　蓬莱切　おほぞらに　墨継ぎの技法
12月	高野切第三種　しらゆきの　短冊の書式
１月	隷書　曹全碑　有志　隷書の特徴　蔵鋒
２月	漢字仮名交じりの書　古典を生かした表現　自選語句　漢字と仮名の調和　文字群、余白
３月	自由創作　年間で学んだ用筆による創作

教　科 科　目	保健体育 保　　健	学 年	５年	単 位	１単位	担 当	浦　元　久　美　子

【科目の概要】

心の健康、食生活をはじめとする生活習慣の乱れ、生活習慣病、薬物乱用、性に関する問題など現代社会のおける健康・安全の問題は深刻かつ多様化してきており、心身の健康の保持増進が大きな課題となってきている。「現代社会と健康」の項目では、現代社会における健康やその対策の考え方変化してきていること、生活習慣や喫煙、飲酒・薬物乱用などの問題に対応する必要があること、自己実現を図る努力が必要であること、交通事故を防止するためには適切な行動や交通環境などが重要であること、及び傷害や疾病に際して応急手当を適切に行うことが重要であることなどが内容である。

【育成をめざす学力】

「健康で活力ある生活を送る態度や能力身につける」現在及び、将来の生活において健康安全の課題に直面したときに、的確な思考・判断に基づいて適切な意思決定を行い、自らの健康の管理や健康的な生活行動の選択及び、健康的な社会環境づくりが実践できるような資質や能力を育成する。

【評価基準・評価項目】

・　社会生活における健康・安全について理解できる。

・　生涯を通じて自らの健康を、管理・改善できる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	オリエンテーション１　パラリンピック
6月	２　私たちの健康のすがた ３　健康のとらえ方 ４　生活習慣病と日常の生活行動
7月	５　喫煙と健康　６　飲酒と健康７　薬物乱用と健康
8月	８　医薬品と健康
9月	９　感染症とその予防１０　エイズとその予防（エイズ教育）
10月	１１　健康に関わる意思決定 １２　意思決定・行動選択に必要なもの
11月	１３　欲求と適応機制 １４　心身の相関とストレス
12月	１５　ストレスへの対処 １６　自己実現
1月	１７　交通事故の現状と要因１８　交通社会における運転者の資質と責任
2月	１９　安全な交通社会づくり ２０　応急手当の意義とその基本
3月	保健の総まとめ

教　科 科　目	保健体育 体　　育	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	猪　寛子

【科目の概要】

各種の運動の合理的な実践を通して、課題を解決するなどにより運動の楽しさや喜びを味わうとともに、運動着のを高めることができるように、生活を明るく健全にする態度を育てる。

【育成をめざす学力】

各種の運動を適切に行うことによって、自己の体の変化に気づき、体の調子を整えるとともに、体力の向上を図り、たくましい心身を養う。

【評価基準・評価項目】

・　集団で協力し、各自で考え行動・判断ができる。

・　個人的能力と集団的能力を身につけることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

4・5月	1．体育に関するオリエンテーション　安全教育
6月	2．集団行動 …体育で行う行動様式の習得
7月	3．バレーボール ①基本的なボール慣れ　②パス…オーバーハンド、アンダーハンド　③レシーブ ④実技テスト
8月	⑤ルール説明、ゲーム（班毎のリーグ戦）
9月	4．ゴルフ ①基本練習…グリップ、アドレス、スタンス、素振り
10月	②応用練習…ハーフショット、フルショット、寄せるショット、パター
11月	③評価・実技テスト（フルショット・寄せるショット）
12月	④ラウンド評価（何打でラウンドできたか）
1月	5．バスケットボール ①基本的なボール慣れ（スキルテスト）　②パス…チェスト、バウンズ、アンダー、ショルダー、 ③ドリブル　④ドリブルシュート、ランニングシュート　⑤ジャンプシュート
2月	⑥評価・実技テスト ・パス　・ドリブル　・ドリブルシュート、ランニングシュート
3月	⑦ルール説明・ゲーム（班毎のリーグ戦）

教　科 科　目	英　語 コミュニケーション英語Ⅱ 英語表現Ⅱ	学 年	５年	単 位	８単位	担 当	白谷　裕 松下範枝・宇高かれん 天野ムチャレジス

【教科・科目の概要】皆さんはこれまでに英語を勉強してきたと思いますが、まず，何のために英語を身につけるのか考えてみて下さい。英語は国際補助言語として多くの国と地域で言語や文化が異なる人同士をつないでいます。より多くの人とつながるために，英語を聞き，話し，読み，書く総合的な力を育てましょう。さらに，英語は単にことばを身につけるためだけの科目ではありません。５年生では、地球や人間に関わる重要な問題について考える題材を通し、生き方、動物、日本文化、社会、デザイン、歴史、自然科学、ものづくり、心理学、戦争の 10 のトピックについて知識を深め，批判的に考える力や，考えたことを伝える力を伸ばして行きたいと考えます。
計８単位のうち２単位はティームティーチングでＯＣの授業を行います。２単位は受験演習の時間として設定し，文法を中心に多くの演習問題を解きながら、英語の表現力もつけていきます。４単位は教科書を使いながら，多量の英文を読んで理解し，それを要約したり、自分の意見を書いたり話したりすることを目指し，最終的にディベートに挑戦していくための力をつけていきます。

【育成をめざす学力】

Reading	速くそして正確にパラグラフごとのテーマと論理展開を見抜く力 テキストを分析的・批判的に読む力
Listening	目的をもって展開を予測しながら聴き、内容を把握する力
Speaking/Writing	与えられた知識を活用して自ら考え、積極的に英語で表現する力

【評価基準・評価項目】

- Speaking：　身近な問題についてディベートをすることができる。　学習した英文の内容の概要をまとめ，簡単な英語で発表することができる。
- Writing：　身近な話題について，150 語程度の英文で自分の考えや意見を書くことができる。プロセスライティングの過程を実行し，パラグラフで自己表現することができる。
- Reading：　新テストレベルの英文を AB クラスは wpm75、C クラスは wpm100 程度で読み，理解できる。Oxford Bookworm Stage1 レベルの本を読んで，内容を理解することができる。
- Listening：　まとまった英文を,メモを取りながら聞き，大意を把握することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４・５月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 1～2 /文法・表現力演習（郵送課題）／実力考査
６月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 3～4　／　文法・表現力演習　／　Show&Tell・Writing
７月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 5　／　文法・表現力演習　／　Discussion
８月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 5　／　文法・表現力演習　／　ディベート
９月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 6～7　／　文法・表現力演習　／　ディベート
10 月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 7～8 ／　文法・表現力演習　／　ディベート
11 月	コミュニケーション英語Ⅱ Lesson 9～10　／　文法・表現力演習　／　ディベート
12 月	コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 1　／　文法・表現力演習　／　ディベート
１月	コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 2　／　文法・表現力演習　／　ディベート
２月	コミュニケーション英語Ⅲ Lesson 3 ／　文法・表現力演習／　ディベート・ スピーキングテスト
３月	まとめ　＜ディベート コンテスト＞

教　科 科　目	聖書	学 年	５年	単 位	１単位	担 当	佐藤　清一

【科目の概要】

現在の教会がその成立から経てきた筋道を知り，キリスト教が人類文化の発展に果たした役割を学び、歴史歴に働く神のみ業を読み取る。

【育成をめざす学力】

A.聖書と教会を理解するための知識を習得し、整理する力。

B.知識を活用（分類・分析）して聖書や教会を解釈する力。

C.知識を活用（分類・分析）して自分自身の将来像を展望する力。

【評価基準・評価項目】

・キリスト教史を学ぶ意味が理解できる。

・キリスト教史から歴史歴に働く神のみ業を読み取ることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

４月	キリスト教史を学ぶ意味 キリスト教成立の背景とイエスの時代 ペトロとパウロの活躍 ローマ帝国による迫害と公認
５月	
６月	
７月	
８月 ９月	古カトリック教会の教えの確立 キリスト教のゲルマン人への浸透とローマ教皇権の伸張 東方教会の発展
10月	教皇と皇帝の対立と十字軍
11月	ヨーロッパ中世の文化
12月	教皇権の動揺と異端の動き
１月	ドイツの宗教改革(1)
２月	ドイツの宗教改革(2)
３月	スイスの宗教改革

教　科 科　目	インテグレーション５	学 年	５年	単 位	１単位	担 当	５学年教師

【科目の概要】

５学年の学年目標は「他者との協力で世界に関与できる生徒」です。学年行事である修学旅行（研修）を通して様々なことを学びます。同時に、クラスメイトをはじめ現地の方々との関わりを通して視野を広げていきます。この他、日本語及び英語によるディベート学習を通して、社会問題への関心を深め、多面的なものの考え方を学び、自分の意見を的確に表現できる力の定着を目指します。４学年で学んだ「論理コミュニケーション」については応用編に取り組みます。

【育成をめざす学力】

・自己の研究課題の発見と情報を収集・分析できる力
・テーマに関する興味・関心と基本的な知識を身につける力
・レポート発表のためにプレゼンテーションする力
・根拠を明確にし、説得力のあるスピーチをする力
・研究活動に対して、自己評価や相互評価ができる力
・物事について筋道をたてて、論理的に考えることができる力

【評価基準・評価項目】

・　テキストの質と適切さを見極め、情報源の出典を明示することができる。
・　学習した結果、何を読み取れたのかを「自分の言葉」で表現することができる。
・　研究課題に対して、的確な文章で表現し、プレゼンテーションができる。
・　自らの経験や観察から根拠を明確にし、それに基づいた意見を述べることができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

〔１学期〕

・論理コミュニケーション（応用編）

〔２学期〕

・進路学習
　模擬試験結果分析～学習姿勢の振り返り～
　志望動機書作成（第一志望届）
・ディベート学習　　日本語ディベートの研究と実践
　日本語ディベート大会（クラス内試合～学年決戦）
　ディベート小論文
・論理コミュニケーション（応用編）

〔３学期〕

・ディベート学習　　英語でのディベート実践
　英語ディベート大会（西南 English Day）
・進路実現に向けて
・論理コミュニケーション（応用編）

教　科 科　目	高大連携講座	学 年	５年	単 位	２単位	担 当	５学年教師

【科目の概要】

高大連携講座は主に本校併設大学の教員との連携で，実際に大学教員による講義等を受けながら，大学における研究姿勢や研究意義を学ぶことによって進学意識を高める。また自主研究体験を通して大学での研究方法のスキルを学び高校での学びと大学進学後の学びをスムーズに連携させることを目的とした，本校独自の設定教科である。

【育成をめざす学力】

・大学で求められる研究姿勢を身につけ基本的な研究ができる力
・講義の概要をまとめる力
・自己の研究課題を発見し情報を収集し分析する力
・研究活動に対する自己評価・相互評価する力

【評価基準・評価項目】

・研究課題を見つけ調査研究し現状把握することができる。
・問題解決の方策を発見することができる。
・自分の考えを説得力ある表現で示すことができる。
・多くの情報を収集し、活用することができる。

【年間指導単元・内容と学習活動】

１学期	・オリエンテーション ・ テーマ学習（「SDGs（持続可能な開発目標)」を軸とした国際理解） 現状分析・課題発見・改善 解決策の考察
２学期	・テーマ学習（「SDGs（持続可能な開発目標)」を軸とした国際理解） 調査・研究・解決策の考察・発表（ポスター発表） ・ 西南女学院大学の講義の受講 （事前研究　　講座受講　　レポート作成　プレゼンテーション） ・「環境首都検定」に向けて学習する 課題分析・理解
３学期	・ テーマ学習（「SDGs（持続可能な開発目標)」を軸とした国際理解） 論文作成と発表（口頭発表）